



音楽の輪サークル  
〔きららさん〕と〔のびやかさん〕との交流



すまいりい



学内募金活動(相模原市緑区台風災害)



軽音学部、ダンスサークル、音楽の輪サークル  
〔きららさん〕と〔のびやかさん〕との交流

## CONTENTS

2020年度 聖句

「見よ、新しいことをわたしは行う。  
今や、それは芽生えている」  
(イザヤ書43章19節)

IZUMI  
topics

深町正信 理事長(2019年度和泉短期大学卒業式祝辞) ……	2
佐藤守男 学長(贈る言葉) ……	3
新型コロナウイルス感染予防の取り組み ……	4
特集(和泉短大とボランティア) ……	6
TOPICS ……	7



# 2019年度和泉短期大学卒業式祝辞

理事長 深町 正信



新型コロナウイルスの感

染拡大により、今年度の和泉短期大学の卒業証書・学位記授与式、同専攻科介護福祉専攻の修了証書授与式、また新年度の入学式を残念ながら中止せざるを得なくなりましたが、これは当日、予定していた式辞であります。

本日、ここに、2019年度和泉短期大学卒業証書・学位記授与式、又、同専攻科介護福祉専攻の修了証書授与式を迎えられた卒業生、修了生の皆様方にはまず、私は心からのお慶び、お祝いを申し上げたいと思います。この式典には、ご多忙の中をご臨席くださいました御来賓の先生方、理事、評議員、監事の先生方、

同窓会の会長をはじめとして各委員の方々、そして実際に日々、学長のもとに、熱心にご指導下さいました教職員の方々、また、今日までの同窓会、父母会、後援会の皆様方のご支援と御働きに心からの敬意と感謝を申し上げます。

卒業生の皆様、皆様が今日、このように晴れて、めでたく和泉短期大学を卒業されるまでには、今、静かに思い起こしてみれば、御両親、御家族の温かな御理解と色々なご援助があったればこそ、今日のこの卒業という喜びの日を迎えることが出来たのであらうと思えます。

特に、この在学中の2年間、この和泉短期大学で出会い、日々の学生生活とともに送ってきた学友との喜び、悲しみ、苦しみ、試練を、今日までともしてきたからこそ、今、この卒業式を迎えた喜びがあり、自らが

日々、切磋琢磨して、今日までの2年間を、また専攻科の皆様の和泉短期大学の日々の学生生活を有意義に過ごすことが出来たのであらうと思えます。

ところで人は誰でも生きがいのある人生を送りたいと願うものであります。何が本場に「生きがいのある人生」であるのかということについて、精神科医である『生きがいについて』人間を見つめて『等の数多くの有益な書物を残され、多くの人々に大きな影響を与えてきた神谷美恵子さんによれば、生きがいのある人生とは結局「使命に生きる人生」であると書き残しておられます。

それは生きるということ、否、生かされていることに対しての責任感こそが実は私達の人生の大事な課題であり、それこそが『使命に生きる人生である』とも書いておられます。つまり、使命に生きる人生とは、自分の人生には何らかの果

たすべき仕事と意味があるという自覚に生きることにあるということです。

私達は自分の人生の使命が何かを、今、すぐに、それが何であるかをはっきりと捉えられなくても、自分に課せられていることとして、**「一生、之、求道」**の精神をもって生き抜くことこそが実は大切であらうと思えます。

卒業生の皆様は、この自分の夢と希望をもって、まさに、今、それぞれが新社会人として新しい自分の人生に向かって第一歩を歩みだそうとしているわけですが、その皆様に私は本学の土台である聖書の言葉を一つお贈りしたいと思えます。

それは新約聖書のフィリピの信徒への手紙4章8節と9節の言葉です。これは使徒パウロの言葉であります。すべてが真実なこと、すべてが高いこと、すべてが正しいこと、すべてが清いこと、すべてが愛すべき

こと、すべてが名誉なこと、又、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい」とあります。また、「わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたとともに居られます」という言葉です。

この聖書の言葉を、今から始まるうとしている皆様の新しい人生の歩みの中でしっかりと心に受け止めて、意義のある人生を是非送って下さいますように心から期待し、祈って、送り出したいと思えます。主なる神様は必ず、あなたを助け、導き、守り、支えてくださいますので、その主の愛に守られつつ、新たな職場の歩みをあらたに切り開いて行ってください。卒業生、修了生の皆様、御卒業おめでとうございます。

## 贈る言葉

学長 佐藤 守男



児童福祉学科174名、専攻科介護福祉専攻4名の皆さん、ご卒業・ご修了、おめでとうございます。

2020年3月10日10時30分より和泉クラーク・ホールにおきまして学校法人和泉短期大学児童福祉学科「第54回 卒業証書・学位記 授与式」専攻科介護福祉専攻「第10回 修了証書 授与式」を行う予定でした。

しかし、卒業生・修了生そしてそのご家族の皆様方の健康と安全を守るため、また、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ社会的責任のため、中止することになりました。

卒業・修了する皆さんとそのご家族の皆様方にとって、また和泉短期大学に取りまして、この学位記授与

式・修了証書授与式は大切なものであり、そして何よりも皆さんと共に祝いできないことが、とても残念でありません。

改めまして、和泉短期大学を代表致しまして、これまでの皆さんの努力と研鑽とを、心より讃えたいと思っております。卒業・修了、誠にめでとうございます。

また、この日まで長きにわたり、ご息女・ご息子の勉学を支えてこられました、ご家族の皆様方にも、心よりお喜び申し上げます。

おそらく、ご家族の皆様方は、ご息女・ご息子が卒業・修了されることにほっとしておられることでしょう。そして、同時に、我が子の旅立ちを目の前にして、予測不可能な時代に、不安を感じておられることと思えます。

しかし、卒業・修了される皆さんは、この和泉短期大学で身に付けた「専門的な知識や

技術」を糧として、目の前にある問題に取り組み、隣人と共に歩んでくれることと思えます。

さて、日本にも近い将来「Society5.0」が到来すると言われています。

「Society5.0」とは、「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」そして、現在の「情報社会」に続く、新たな社会として提唱されている「超スマート社会」です。

これまでの「情報社会」では、あふれる情報の中から、私たちに必要な情報を見つけて、分析・判断する作業が必要でした。しかし、これからの社会は、通信技術の発達と膨大なデータを蓄積・処理するインターネットの発達によって、全ての人とモノがつながり、様々な知識と情報が共有され、新たな価値が生み出され、それを活用することによって、現代社会の課題を克服しようというのが「Society5.0」だとい

うのです。

ところで、これからの日本の社会を想像してみますと、ますます「少子化・高齢化」が進み、労働力人口が急速に減少しますので、それに伴う経済成長は鈍くなることでしょう。

そして、「社会保障制度」は機能しなくなり、「格差」が拡大して、私たちが望んでいる「安全で安心して暮らせる社会」「一人ひとりの豊かな人生」は危うくなっていくかもしれません。その上、「AI社会」の到来によって、今後10年から20年で、現在の仕事の約47%が自動化され、多くの職業がなくなり、これからの若者にとって、予測不可能な時代がやってくると思われる。

しかし、職業がなくなるのは今に始まったことではなく、「AI社会」が進めば、今まであった職業がなくなることもあるでしょうが、新しい価値を持った、新しい職業もまた

生まれてくるのです。これまでも、肉体労働が機械に代わってきたように、知的労働分野においても同じようなことが起こっています。

例えば、知的労働のうちでも単純作業である、計算や統計、確認のような定型的な仕事はコンピュータに置き換わっていますし、クリエイティブな要素の少ない仕事も、AIに置き換わってきています。

ですから、私たち人間は、コンピュータの得意な分野で、張り合えるのではなく、コンピュータでは難しい分野、すなわち、人間らしい能力に目を向けていくことが大切です。

和泉短期大学は長い間、保育や幼児教育、介護の専門職の養成に携わってきました。まさにこの分野こそ、コンピュータでは難しい分野なのではないでしょうか。『相手の感情を理解したり、共感したり、場の空気を読んだりして、相手をも

てなす』このようなホスピタリティの精神の高い行為は人間でなくてはできません。

本学は今年5月で、創立64周年を迎え、卒業生は約19400名となります。その卒業生のほとんどが、住んでいる地域のリーダー的存在として、神の栄光を表す素晴らしい働きをしています。

和泉で学んできた皆さんは、このように予測不可能な時代にあっても、先輩たちのように社会から必要とされ、そして、地域住民から期待されている知識や技術を学んできたのですから、安心して社会に出て、社会のために貢献して頂きたいと思えます。

最後になりました。これまで、本学のためにお力を貸して頂きました。管理人の田中哲三郎さん、貞子さん（16年間）非常勤講師の井田英子先生（19年間）、生沼晴美先生（7年間）、横地みどり先生（6年間）

特任講師の下西潤子先生（12年間）  
教育学習支援ユニット主任の穴井康夫さん（13年間）

これまで、本学のためにご尽力を頂きまして、誠にありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

そして、ご家族の皆様方には、これまで、父母会の活動を通して、本学のために、様々なご支援とご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

長い学びの時が終わる、新しい人生へと歩みだす、

卒業生、修了生の皆さんと、そのご家族の皆様、そして、和泉短期大学のためにご尽力を頂きました皆様方の上に、神さまの豊かな祝福がありますよう、お祈り申し上げて、贈る言葉とさせていただきます。

## 「新型コロナウイルス感染症予防の取り組み」

副学長 大下 聖治



令和2年1月16日に日本国内で初の新型コロナウイルス(COVID-19)への感染者が出てから約4ヶ月が過ぎようとしておりますが、その脅威については国内のみならず、世界的規模で予断を許さない状態が続いております(5/17日現在)。本学におきましても、感染拡大の状況を鑑み、学生、教職員の安全確保に様々な対策を講じてまいりました。以下、その取り組みについて本紙面を借りて説明いたします。

①「2019年度卒業式・2020年度入学式」の中止 卒業式、入学式共に卒業生、新入

生と保証人の方々にとって、また教職員にとっても、大変に重要なセレモニーでありますが、卒業生、新入生の皆さん、そして保証人の方々の健康と安全の確保、そして感染拡大を防ぐ社会的責任という観点を重んじ、中止という苦渋の決定をいたしました。

②「新型コロナウイルス緊急対策特別委員会の設置」新型コロナウイルス感染症への対応・対策を協議するため、2020年4月7日「新型コロナウイルス緊急対策特別委員会」を設置しました。対策委員会では、

1. 学生、教職員、またその家族の皆さまの安全を確保する上での対策。2. 学事日程の検討。3. 実習実施に関する弾力的な対応の検討。4. 対面授業開始の際の安全な環境構築。5. 急を要する学

③「学事日程の延期・変更・中止の決定」非常事態宣言の期間、及び東京都や神奈川県が指示、要請等から、授業開始日程を変更いたしました。また、対面によるオリエンテーションの中止、健康診断の延期、実習実施時期・期間の変更等、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、その都度、学生、教職員の安全確保を最優先にした学事日程の変更を行いました。

④「入構禁止、及び学内の施設利用禁止措置」新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月2日から5月31日まで、学生の学内施設利用原則禁止の措置をとっております。

⑤「対面オリエンテーション中止に伴うテレミーティングの実施」入構禁止の措置が続く中、新入生全員に対して教員による「テレミーティング」を実施し、新入生個々と直接電話で言葉を交わし、具体的なサポートと同時に心的ケアを行いました。

⑥「オンライン授業実施に向けた準備」今回の新型コロナウイルス感染症対策としてだけでなく、今後の教育システムを見据えて、学内に「オンライン授業促進WG」を立ち上げました。学生のネット環境を調査し、一部の学生に不利益が生じないよう、オンデマンド型、同時双方向型、教材課題配布型の運用に向けた環境構築を進めております。

⑦「教科書等の無償提供」学生の皆さまの利益を無くす上でも、また、学修の質を確保する上でも、早急に学生の皆さまのお手元に教科書等をお届けすることが急務であると判断いたしました。そのため、教科書代、配送料については、本学が全額負担することとし、前期に関しては無償にて教科書等を提供することといたしました。

⑧「その他」その他にも、新型コロナウイルス感染症防止策についての周知の徹底、教職員に対するテレワークの導入、家計が急変した際に申請できる奨学金・学納金延納制度の周知、協力各社(食堂、売店、スクールバス、警備、清掃)との安全確保のための対応協議、等々、この紙面上では紹介しきれない様々な対策を講じてきております。

今後も暫くは新型コロナウイルス感染症の脅威は続いていくと想定されますが、様々な制度を利用して学生の皆さんを支援していくのと同時に、時限的・一時的な措置も含めて、今後の状況の変化に迅速に対応してまいります。

## 相模原市地域連携

### 「国際ソロプチミスト相模」2020年度Sクラブ、シグマソサエティ助成金贈呈式

2020年2月20日(木)相模原市民会館にて、『国際ソロプチミスト相模』(川合マリ子会長)から和泉短期大学(土橋事務局長が出席)、神奈川県立相原高等学校、相模原市立共和中学校の3校に対し助成金の贈呈式がありました。

国際ソロプチミスト相模から本学に対しての助成金(60,000円)は、2005年度から始まり本年度で15回支援していただいております。

貴重な助成金をハンドベル履修学生の依頼演奏、集中練習等に係る交通費、及び活動費等のハンドベル・クワイア活動に使用させていただきました。



# 2019年度表彰者

## 眞鍋記念奨学金(後期)

1年 小俣美由紀  
(県立相模原総合高等学校 出身)



この1年、和泉で学んだことをボランティア活動や実習で活かし、自分の世

界が広がったことを実感したとともに、学びへの意欲も高まりました。和泉での残りの学生生活、実習等から様々なことを学び、理想の保育者になれるよう日々精進したいと考えています。

1年 河合 真夏  
(県立相模原青陵高等学校 出身)



私はこの一年を通して、学んできたことがふれあい体験や実習で結びつき、

より保育や福祉への理解が深まっていると感じています。これからの一年は更に学びを深めていくと共に学生最後の年を仲間と一緒に楽しみ、思い出に残る年にしていきたいです。

2年 中尾由希子  
(日本大学第三高等学校 出身)



和泉を通して過ごした2年間は、単に資格取得を目指すのではなく、自分を

客観的に見つめ、今後どう生きるかを問う時間でした。励ましや勇気を与えてくれた仲間、そして先生方に感謝いたします。これからは専門家として、学び続ける姿勢を忘れずに、日々精進いたします。

2年 小岩 早希  
(都立山崎高等学校 出身)



卒業後は保育園で担任の先生として子どもたちと触れ合っていく毎日になり

ますが、和泉で2年間学んできたことを忘れずに、そして現場で新たに出会う学びも大切にしながら保育士として励んでいきたいと思えます。2年間ありがとうございました。

専攻科 戸栗 知春  
(県立厚木西高等学校 出身)



授業や実習を通して、地域の方々と施設の利用者の方々と関

わりながら介護に必要なことをたくさん学ぶことが出来ました。

4月からは学んだことを生かしながらより努力をして頑張りたいです。

## 〈学生顕彰制度〉

### 讃岐和家記念賞 和泉短期大学学長賞(後期)

2年 小野家 深  
(都立町田総合高等学校 出身)  
(ワークスタディ)



児童福祉学科を卒業するにあたり、讃岐和家記念賞と学長賞を受賞すること

ができ、大変嬉しく思います。和泉での2年間、勉学はもちろん様々な活動に取り組み濃い2年間になりました。学んだこと全て私の宝物になりました。4月からは専攻科にて学びを深めていきます。今後も「愛と奉仕」をモットーとして、仲間と切磋琢磨し、勉学や様々な活動に取り組みたいと思います。

### 和泉短期大学学長賞(後期)

2年 加藤 里穂  
(県立厚木西高等学校 出身)  
(ワークスタディ)



和泉での学生生活を振り返ると、多くのことを学び、大きく成長することが

できた2年間だったと感じます。その中で、広報ワークスタディとして、オープンキャンパスに携わり、様々な面で、自信を持つきっかけをつくることができました。この貴重な経験を糧にこれからも頑張っていきたいです。

### 学生ボランティア活動奨励奨学金

2年 吉田 亜美  
(県立相模原青陵高等学校 出身)



ボランティアサークルの活動を通して、地域の方々の交流を図ることがで

き貴重な経験を得ることができました。この経験から多様な考え方を知り、人として成長することができたと思います。和泉で過ごした時間を大切に今後も学びを深めていきたいと思えます。

## 2019年度後期 学修奨励奨学金奨学生

佐々木 日菜 / 小澤 彩花 / 吉田 千桜 / 及川 千夏 / 黒根 綾乃 / 岡本 夏実 / 渡辺 さなみ / 荒井 空

## ボランティア活動について 「心からの笑顔を引き出せる学生達の力」

准教授 中野 陽子



和泉短期大学のボランティアサークルは、年間を通じて様々な活動を実施しております。毎月1回松が丘園（麦の穂）さんのパン販売、さらさらさんの布製品とクッキー販売、のびやかさんの木工製品等販売会のお手伝い、1〜2か月毎に1回相模原市児童相談所にて里親会の里子さんの保育、7月に実施される神奈川県立相模原中央支援学校あそびの広場のお手伝い、10月にユニコムプラザで実施されているまちづくりフェスタで子どもの遊び場運営、11月児童虐待防止啓発の一環としてオレンジリボンの街頭配布、淵野辺公園で実施されることも未来ワールド山光が丘にて遊び場運営などの活動を行っています。

2019年度からは、障がい者支援施設の販売会を1施設から3施設へと増やしたことで、ほぼ毎週障がいのある方が来校して下さっています。利用者さんは自分たちが製作した製品を目的で売ること喜びを感じ、学生も「可愛い！」「美味い！」「と販売会を楽しみにしております。さらさらさんは、すまいりい（子育てひろば）を実施している木曜日に合わせて販売をしているため、地域の親子連れさんもたくさんお買い物に来てくださっております。ここでは、学生、子どもと保護者、障がいのある方と小さな共生社会を作ることができていると思っております。

また、2019年度は新たな取り組みとして、ボランティアサークルの学生が中心となり、さらさらさんとのびやかさんをお招きして音楽を通じた交流会も始めました。販売会だけではなくもう一歩踏み込んだ交流をしたと考え、学生達が主体となって音楽の輪サークルを作りました。利用者さんと一緒に歌や踊りを楽しみ、来場の御

礼にと画用紙や折り紙を活用し手作りのプレゼントも渡して大変喜ばれております。はじめのうちは、「どう声かけてよいかわからない！」「人見知りだから！」などと話す学生も、少し背中を押すことで自然に利用者さんの輪に入っていくことができ、これはまさに和泉生の力だと思えます。利用者さんの心からの笑顔を引き出している学生達の姿は本当に感動いたします。

ある時、学生がゴミ袋とガムテープを使用しバルーンを手作りし、利用者さんに変身しました。そこで、ムーブメント療法で使用するパラバルーンを購入させていただき利用者さんの好きな曲に合わせてみんなで遊びました。バルーンを持って動かすことも、バルーンの中に入り風を感じることも楽しいため、車椅子利用の方も含め全員で楽しむことができます。特に、強い風が吹くと歓声が上がりました。そして、毎回終了時は、花道を作って利用者

## 新入生のことば

児童福祉学科 池見穂ノ香



私には保育者以外にもう1つ夢があり、和泉に受験することを決める前は、もう1つの夢をずっと追いかけて頑張っていました。だから、保育学校を目指してきた方より保育の知識が劣るところがあると思います。だけど、そのことをマイナスに捉えず、自分は周りより沢山の課題があるから、人より頑張らないといけないという事を胸に入学し勉強に取り組みます。それを達成できた時が楽しみです!!

児童福祉学科 門馬 花



私は小さな頃から子どもと関わる仕事に就きたいという夢を持っていました。オープンキャンパスに行った際、話を聞いたり体験をさせていただき、先生方から多くのことを学びたい、そして貴学で学ぶことにより人としても成長できると思いました。

現在、新型コロナウイルスの影響で大学生活はまだ始まっていませんが、多くの人と交流をし、協力し合って充実した2年間を過ごしたいです。そして私は一人ひとりに寄り添うことのできる保育者を目指すとともに、子どもの最大の魅力である「笑顔」をたくさん引き出せる人になりたいです。

専攻科介護福祉専攻 加藤 里穂



私が専攻科介護福祉専攻に進む大きなきっかけとなったのは、児童福祉学科の実習で障がい者施設に行ったことでした。障がいを持っていての方と関わり、もっと詳しく援助方法などを学びたいと考えようになりました。専攻科での1年という短い時間の中で、たくさん知識と技術を身につけ、今よりも大きく成長した姿で現場に出たいと感じています。この1年の学びが自分自身の強みとなるように、学びの姿勢を大切に、授業や実習などに真剣に取り組んでいきたいです。

## TOPICS

## 同窓会いずみ第10回定期総会を開催しました

2020年2月22日(土)和泉クラーク・ホールの学生食堂にて、2019年度同窓会いずみ第10回定期総会を開催し、17名の参加がありました。

学校法人和泉短期大学理事伊藤忠彦先生による開会祈祷で始まり、佐藤守男学長挨拶、遠藤陽子会長挨拶に続き、2019年度の活動報告と中間決算・中間監査報告、2020年度の活動計画(案)、予算(案)、新役員の選出について審議し、全て原案どおり承認されました。

定期総会后予定していた、教職員・退職された先生方と卒業生との交流会は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止のため、中止となりました。



## 2年生の父母会役員に記念品を贈呈しました

2020年3月2日(月)学長室において、2年間父母会役員としてご尽力いただいた2年生の父母会役員9名の皆様に、佐藤守男学長、土橋正文事務局長が感謝の意をお伝えし、渡辺和子著「強く、しなやかに 回想・渡辺和子」に、佐藤学長のサインを入れて記念品として贈呈しました。

役員の皆様、2年間ありがとうございました。



## 2019年度 和泉短期大学 専攻科介護福祉専攻第10回事例発表会を開催しました

2020年2月7日(金)和泉短期大学大会議室にて専攻科事例発表会を開催しました。

例年、事例発表会では、専攻科学生の1年の学びの集大成として、実習で学んだ介護過程の発表を行っています。今年度はそれに加え、国際機器展に参加しての学びも発表されました。

発表会には、施設関係者13名、青葉二丁目自治会3名、和泉教職員15名、次年度入学の専攻科生11名と多くの方々にお集まりいただき、学生の発表を温かく見守っていただきました。



## 第32回 介護福祉士国家試験 全員合格しました

第32回介護福祉士国家試験の結果が、2020年3月25日(水)に発表され、和泉短期大学 専攻科 介護福祉専攻の学生は4名受験し、全員合格しました。合格基準は総得点125点に対し、得点77点以上の方です。合格率69.9%。和泉短期大学は、昨年に続き2年続けて合格率100%です。この1年間、一生懸命、真摯に授業、実習そして国家試験対策に取り組んだ成果です。

今後は介護福祉士取得者として、それぞれの専門職として、さらなるご活躍されることを心からお祈り申し上げます。



## 2019年度第9回ベストオブスタッフ賞(事務局長賞)

2019年度の1年を通して一番いい提案・提言を提示し、業務改善を行った事務職員に対して、ベストオブスタッフ賞として、事務局長から『賞状と金一封』を贈りました。

表彰対象職員は下記の3名の方々です。

## 学生支援ユニット 石川 佳代さん

日常から学生一人ひとりに寄り添って、学生生活・進路支援ができるように弛まぬ研鑽を行っている。データ分析により高い就職率を維持した。

## 教育学習支援ユニット 小澤 由美子さん

学生一人ひとりに愛情ある支援に努めている。非常勤教員の授業が円滑に行われるように連絡・調整を行っているため絶大な信頼を得ている。

常にユニット内の業務改善・見直しを図っている。

## 庶務ユニット(庶務担当) 池田 悦子さん

学長秘書業務と法人諸規程の改正。制定の資料作成を迅速かつ正確に行った。寄附行為改正に伴う、「第2次中期計画15のビジョン」の優れたデザインを行った。



左より 小澤 由美子さん 池田 悦子さん  
土橋 正文事務局長 石川 佳代さん

事務局長 土橋 正文

## 2019年度『教育環境充実資金募金』報告

2019年度「教育環境充実資金募金」については、震災・災害対策として4号館和泉クラーク・ホール照明器具の改修工事に対して、891,010円を充当させていただきました。

ここに2019年度教育環境充実資金募金報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

募金目標額 10,000,000円  
募金期間 2019年6月1日～2020年3月31日

寄付者一覧(敬称略) <2020年2月16日～2020年3月31日>  
国際ソロプチミスト相模原 会長 川合 マリ子  
井上 容子/齋藤 淳一 以上3件

ご寄付者総数 72件  
寄付金総額 891,010円  
募金対象事業 震災・災害対策  
(3号館和泉クラーク・ホール照明器具改修工事)  
和泉クラーク・ホール音響設備  
その他教育環境改善費他

## 2019年度 和泉短期大学『愛のいずみ基金奨学金募金』報告

2019年度「愛のいずみ基金奨学金募金」報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

募金目標額 3,000,000円  
募金期間 2019年6月1日～2020年3月31日  
寄付者一覧(敬称略) <2020年2月16日～2020年3月31日>  
井上 容子 以上1件  
ご寄付者総数 53件

寄付金総額 1,005,010円  
募金対象事業 経済的事情により修学困難な学生を支援するための本学独自の給付型奨学金基金  
奨学金実績 2019年度は、給付条件に合う学生がいな  
いため頂きましたご寄付は2020年度に繰  
り延べさせていただきます。

更なる発展を心よりお祈りいたしております。ありがとうございました。

機会を与えられ、あっという間に13年の時が経っていました。辛かったこと、悔しかったこと、誰かの役に立てたという実感、多くの感情が渦巻いています。冒頭の言葉を知ってからは、今が果たしてどの時なのかを常に考えていたように思いません。新しい道が与えられたことを前向きに捉え、踏み出していきたいと思えます。



「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」これは聖書に示された言葉の一節ですが、キリスト教に触れる中で一度は耳にする言葉だと思えます。

2007年に母校の事務局職員として働く

教育・学習支援ユニット 主任 穴井 康夫

「愛と奉仕」の精神のもと、「人生のスタートの児童期と、総仕上げの老年期にかかわる働き人を養成し社会のニーズにこたえる」・「学校の富は学生で、果実は卒業生だ」と先人から伝わっています。この学園で働かせていただいたことに心から感謝しております。



校に改称。2010年介護福祉専攻科(短大卒業後1年過程)に改組されました。

私は和泉短期大学介護福祉専攻科で特任講師として3年間お世話になりました。この専攻科は、1986年老人福祉専門学校(2年制)として開校(当時は卒業後も介護福祉士の国家資格なし)。1992年和泉福祉専門学校

特任講師 下西 潤子

## 退任あいさつ

### 2019年度末で退任された非常勤の先生方(敬称略)

井田 英子(2000年4月～2014年3月、2015年4月～2020年3月)  
<英語コミュニケーションI>  
生沼 晴美(2013年4月～2020年3月)<保育内容「環境」>

上田 よう子(2019年4月～2020年3月)<保育内容「言葉」>  
横地 みどり(2014年4月～2020年3月)<乳児保育I・II>

永年、和泉短期大学の教育に貢献していただき感謝いたします。